

## ラジオママネット～ママトーク

### 第7回放送の概要（2017年10月28日）～LGBTQについて考えよう～

#### （トークメンバー）

**あっちゃん**：50代、20代の子ども2人。ママネットでは、算数教室はじめてのおけいこの講師員。

**あやちゃん**：30代前半、来週2歳になる女の子、先月ママネットに入会。中央区、垂水区で月1～2回で離乳食教室「ゆるいく kitchen」をしている。娘に卵アレルギーがあり、離乳食に悩むママが多く、疑問、不安を解消出来るようにと思い始めた。

**まきちゃん**：40歳、小6（女）、小4（男）、小1（女）。ママネットは婦人会館HPの運用管理、神戸ママネット通信の発行をしているワーキングラボのメンバー、子どもパソコンクラブの講師。

本日はガールスカウトの関係者3人がスタジオにお越しです。その内の一人は山口県出身、大学は広島、卒業論文でガールスカウトと地域を取り上げ、その調査のために神戸に来られました。

本日のテーマは、「LGBTQについて考えよう」です。

性的マイノリティーの表現として、最近はテレビやニュースでもよく取り上げられるようになってきています。私たちは生まれてきた瞬間に男か女のいずれかに分類されています。産院では、両性具有のあかちゃんに遭遇することもあるそうで、とまどいや過酷な選択を余儀なくされるご両親もいると看護師さんから聞いたこともあります。身体の成長とともに、出生時の性別と違和感をおぼえる子どもを目の前にしたとき、私たちはどう向き合うことができるか？  
多様性について、おしゃべりをしたいと思っています。

#### （1）学ぼう

##### ①LGBTとは

- Lesbian (レズビアン＝女性同性愛者)
- Gay (ゲイ＝男性同性愛者)
- Bisexual (バイセクシャル＝両性愛者)
- Transgender (トランスジェンダー＝身体上の性別に違和感を持った人)

といった、性的少数派の中で代表的な4つの頭文字を取った総称です。

この言葉の歴史はとても浅く、日本では2005年頃から使われるようになりました。

##### ②性同一性障がいとは

「トランスジェンダー＝性同一性障がい」と捉えられることがほとんどですが、性同一性障がいとは、身体と心の性の不一致に苦しみを感じ、性別適合手術や戸籍変更望む人たちを指すそうです。しかし、

- 自分の身体と心の性が合っていないと感じるが、戸籍変更や性別適合手術を望んでいるわけで

はない。

- 自分が一つの性にカテゴライズされることに違和感を覚える人。

(Xジェンダーと呼ばれることがあります)

これらも、トランスジェンダーに含まれるそうです。

### ③Qとは

クエスチョニングとは、自身の性自認や性的指向が定まっていない人のことを指すそうです。自分が一体どういう性カテゴリーに当てはまるのか分からない人など LGBT の枠に捉えられない性カテゴリーが Q とあらわされているようです。

### ④Xジェンダー

Xジェンダーは既存の性の在り方に左右されず、自分らしさを表すために、男性性と女性性をうまくカスタマイズしている人を主に指す傾向にあるそうです。ジェンダーフリーというと分かりやすいかもしれませんが。生活の場面によって男性、女性のスイッチが切り替わる流動的セクシヤリティも存在するようです。

## (2) 性別について違和感があったり、意識したことはありますか？

こどもを育てていて感じる性差、

どう向き合っていけばよいか？ (知ることの大切さ)

- あっちゃん、あやちゃんは考えたり意識したことはない。あっちゃんは女子校で、ボーイッシュな女子はすごくもてていた。昔はおかま、おなべという言葉があった。今はおねえという言葉が使われる。
- まきちゃんはエレクトーンを習っていた時、女性のような口調がやさしい受付の男性について、子どもの目線からは気持ち悪いと思われていた。今は気持ち悪いという見方ではなく、マツコデラックスのようにかっこよく思い、悪いイメージはない。小学校などでは少し丁寧なしゃべり方をしただけで気持ち悪い子と言われたりする。
- あやちゃんは、2歳の子や周りの子を見て感じることはない。育児で悩んだりするとネットで調べるが、「女(男)の子の上手な育て方」「女(男)の子の育児の大変なところ」など沢山ヒットする。しかし現実には男、女の2パターンに当てはまらない。特に小さい子は色んな子がいるので2パターンに分類するのは難しい。現実にはパターン分けしたものが当たり前になっているので、生きづらさを感じることもある。女の子が人形よりプラレール好きだった場合、この子大丈夫かと思う人がいる。
- まきちゃんの息子は夏にマニキュアを塗る。姉と妹がいるので一緒にやりたいこともあるが、親としては、男の子だから止めなさいとは言わず、やってもいいと言っている。
- 6年間使うランドセルの色について、昔は固定観念があったが、今はデザインとの関連でいろんな色が選ばれる。ピンク色の服を男子が着る事を問題視されることはない。学校は保健体育の時間は、第2次性徴の話など男女別れて授業を受けている。性別に違和感を持つ子供がいた場合、その子は枠を超えて授業を受けられない。トイレの使用についても同様の問題が考えられる。学年懇談会で、あるお母さんから最近ではLGBTについてどのような教育をしているかという質

問があり、学校はそれについては触れていないと答えていた。

- 色んな性の指向があったり、体と心が一致しない場合があるという事実すら、子供が知る機会があまりない。今スタジオでこのように話をして知っている、僕のような人が他にもいる、僕がこの違和感も別に特別なことではないと理解出来る。自分が変とってしまうのは一番つらいことで、それを親が受け入れてくれないかもしれない、一から説明するのもしんどいと思うようになる。
- 身近な人が理解してくれることが一番と思う。小学校高学年では宿泊活動で入浴や寝泊まりがあるので、先生もLGBTについて理解してほしい。気持ちを隠して周りに合わせるのはつらいことである。
- FMYYのように多様性、一人ひとりの想いを大事にしましょうという場所が地域にはないが、そのような場所を多くの人を知り、思いや気持ちを共有できたら少しは救われるのではと思う。それがないと自分の命を断ってしまったりすることが起きると思う。
- 本日スタジオを訪問されているガールスカウトの方のご意見を伺います。  
ガールスカウトでは今、性の多様性について日本連盟から流れてきて、レズビアンなどについて考えていきたいと思いますとの連絡があり、タイムリーに取り組んでいる。  
ジェンダー、DVはこれまで取り組んできた。女の子のことはばかりでなく、男の子もそうなのだという事を母親の目線から考える場合に、性の多様性をもっと考えながらやっていかなければならないと思う。ガールスカウトだから女の子のことはばかりするのでなく、男の子のことも含む全員の事を考えていきたいと思います、今言われている。女性の方がいろんなことを知らない、母親は出来ないと思っている。
- 男性も育児にいろいろ関わってくれていたら、女子だけが、お母さんだけが知っていなければならないということにはならない。保育所や学校で子供が熱を出すと母親が飛んでいかなければならない。密に関わっているのがお母さんだからという現実がある。
- 男子、女子という固定観念に縛られてしまうと、そのままの自分が出せない場所が増えてしまうのでお互いにしんどくなる。

限られた時間でしたが、それぞれが同じ時代を生きながら、多様な価値観で、自分と周りの人たちの心が満たされるように精一杯過ごしていることがわかりました。これからも助け合っていきたいと思います。

#### (本日の感想)

**あやちゃん**：難しい内容でいろんな考え方、とらえ方があるので、自分の子どもが生きていく上で違和感を感じる時にどうしたらいいか考えるきっかけになった。また近くにそのような子供がいると相談された時に、どのように答えたらよいか、心づもりと気にしておいてあげないといけないと思った。

**あっちゃん**：低学年向けの算数教室をしているが、子供達から自分のことや友達のことを、自分の

前で話してくれたら、その子には普通に接してあげるよう言ってあげたい。

**まきちゃん**：大学時代に男の子であるが中身は女の子であることを自覚し、ゲイであると話してくれた。それは話しても受け入れてくれると思ったためと考える。私は男子っぽく思われるので、告白された後も手をつないで仲良く歩いていた。固定観念にしばられず色々な人達と仲良くできたと思う。

以上